





Contents.



- 1 5月の活動報告・6月の活動予定・お知らせ
- 2 事業報告・今年度の主な事業予定・60周年記念事業に向けて
- 3 事業予定
- 4 姫路建築探訪
- 6 topics「建築と環境」

表紙写真 佐野邸 広間 (姫路建築探訪より)

5月の活動報告

- 5.12(木)ものづくり体験講座(ものづくり体験館)
- 5.14(土)通常総会(姫路商工会議所)
- 5.18(水)第13回環境デザイン研修会(姫路建設会館)
- 5.19(木)  CPD認定講習会
第2回構造学習会(姫路建設会館)
- 5.25(水)ものづくり体験講座(ものづくり体験館)
- 5.26(木)  CPD認定事業
第2回建築相談(姫路市役所)
- 5.30(月)ものづくり体験講座(ものづくり体験館)

6月の活動予定

- 6.1(水)ものづくり体験講座(ものづくり体験館)
- 6.15(水)ものづくり体験講座(ものづくり体験館)
- 6.16(木)  CPD認定講習会
第3回構造学習会(姫路建設会館)
- 6.21(火)ものづくり体験講座(ものづくり体験館)
- 6.22(水)第14回環境デザイン研修会(姫路建設会館)
- 6.23(木)  CPD認定事業
第3回建築相談(姫路市役所)

お知らせ

■建築家講演会 9月17日(土)

本年度も建築家青木淳氏をお招きして開催いたします。開催時間・場所など詳細は決まり次第御案内いたします。

■建築子供プログラム 11月25日(金)

本年度は広峰小学校で開催いたします。ご協力お願いいたします。

■全国大会・見学研修会 10月22日(土)～23日(日)

今年は大分で全国大会が開催されます。それにちなみ大分県の建築作品見学会を開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

詳細は後ページをご覧ください。

28.5.14(土)ー通常総会・活動報告会・懇親会

通常総会

平成28年度通常総会が姫路商工会議所で開催され全議事内容を承認いただきました。



活動報告会

通常総会に引き続き、平成11年から始まった建築家講演会の歴史を振り返り、報告会が開かれました。この内容は昨年度で14回開催してきた事業でその様子を初回より当時の思いを中山前支部長をはじめとして当初より深く関わってこられた方を西脇青年部会長より取材したものを交え動画で紹介いたしました。



懇親会

その後、鷺尾事務所協会姫路支部長にご挨拶をいただき懇親会を和やかに開催し親睦を深めました。



今年度の主な事業予定

通年事業

環境デザイン研修会 毎月 第3水曜日
 構造学習会 毎月 第3木曜日
 建築相談 毎月 第4木曜日
 建築リフォームヘルプ事業 毎月

7月

二級建築士試験監理員派遣 7月 3日(日)
 一級・木造建築士試験監理員派遣 7月 24日(日)

9月

建築家講演会 9月 17日(土)

10月

全国大会・見学研修会 10月 22日(土)～23日(日)

11月

建築子供プログラム 11月 25日(金)

12月

忘年会 12月

(適時)

青年部会主催見学研修会
 大学とのコラボ研修会
 親睦会
 支援事業 ものづくり体験講座

60周年記念事業に向けて

平成29年度に姫路支部は創立60周年を迎えます。記念事業に向けて積み立てていただいた積立金を大切に活かし有意義な事業を開催したいと思います。

現在、事業内容を企画している段階でございますが、今の所環境デザインの研究発表をかねたシンポジウム・記念式典・記念誌発行などを考えておりますが、この1年を通して会員の皆様方のご意見をいただきながら事業計画を進めていきたいと思っております。

また、この50周年からの10年間にご尽力していただいた会員の皆様方には色々取材などを通して御協力をお願いし、また支部会員の皆様方にもご参加をお願いしたいと思っておりますので、どうかその節はよろしくお願いたします。

姫路支部 支部長 西嶋宣久

建築士会全国大会・研修見学会のご案内

10月22(土)・23日(日) 姫路支部企画！全国大会の日時に合わせ、大分県出身の磯崎新建築を中心に、姫路支部主催建築家講演会で姫路市にお越しいただいた方の作品などを見学する研修会を企画いたしました。楽しく有意義な研修にしたいと思います。ご友人等お問い合わせの上、皆様のご参加をお待ちしています。ご参加希望の方は、別紙「研修見学会のご案内」で事務局に申込み下さい。

主な見学コース

6:30 姫路駅集合。新幹線にて大分へ出発。別府駅に10:14到着、レンタカーにて移動

まずは全国大会会場 ビーコンプラザへ

(会場内で大分県の特産品など昼食)

磯崎 新 1995年



↓

まずは磯崎新を知る為、別府市から大分市へ。

アートプラザ旧大分県立大分図書館 磯崎新建築資料室 磯崎新 1966年

↓

大分県立美術館 坂茂設計事務所 2015年



↓

大分県立大分図書館 磯崎新 1995年

↓

湯布院駅舎 磯崎新 1990年



↓

ラムネ温泉 藤森 照信 2005年

↓

野津原町庁舎 伊東豊雄建築設計事務所 1998年



↓

野津原町多世代交流プラザ 青木茂建築工房 2000年

↓

大分市美術館 内井昭蔵 1999年



別府温泉の自由時間を利用し希望者には、登録有形文化財の外湯、竹瓦温泉や、大分の温泉街を一望出来る十文字原展望台など見学を企画しています。



↓

20:04 姫路駅着

解散参加者様の興味の有る見学地に時間配分を調整し滞在させていただきます。その為、見学予定地は変更する場合がありますのでご了承ください。

事業担当 上中理事

所在地：姫路市八代 700 番地

建築年：昭和4年（1929年）

設計：水野鋼太郎、澤井準一



写真1 節制室



写真2 正門門柱



写真3 ポンプ室



写真4 旧事務所

1929年（昭和4）年、姫路市の上水道敷設時に完成した町裏浄水場（町裏水源）は姫路城の北東、野里小学校のすぐ北の閑静な住宅街にあり、周辺の城下町の風情と全く異なった異国情緒あふれる欧風の建物が20,000平方メートルの緑豊かな敷地内に点在しています。当初の姿がほぼ完全な形で残っている近代水道施設で日本近代土木遺産2800選、近代水道100選に選ばれています。この町中にこのような大きな浄水場ができたのは、野里小学校の校舎増築中、井戸の湧水（ゆうすい）量が多いと分かったのがきっかけだったようだ。ここで浄化した水を蓄へ各家庭や工場へ送る配水池が、南西の男山を削って造られた前回レポーした男山配水池である。

高砂市で採れる亀山石を使用したらしい正面の石積みの門（写真2）に入って、まず目に付くのが、今は閉鎖している木造の旧事務所だ、マンサード屋根と六角の出窓、装飾されたポーチ柱など、整った欧風のデザインは設計者のセンスを感じます。（写真4）

RC造のポンプ室（写真3）は、現在も使用されており、正面入り口の青い扉と上部の装飾のある半円窓、半円のドーマーが特徴的である。

そして、もっとも特徴的なのが、4棟ある八角形のRC造の節制棟である。節制棟は4つある池の水の濾過速度を調整するためのものであり、1辺1mほどの八角形の小さな建物であるが、角を基礎石と同系色のタイルで装飾し、上部には立体的な装飾を施し、銅板葺きの屋根の水は内樋で処理するなど、設計者のデザインへの拘りが感じられます。（写真1）

豊富町にある「水の館」では姫路市をはじめ全国の水道工事の変遷を知る多くの書籍、資料があります。節制棟の設計図（写真6）もありました。浄水場への立ち入りは衛生面から許可が必要で簡単に中に入ることはできませんが、一度見学できる機会を設けたいと思います。



写真5 濾過池と節制室

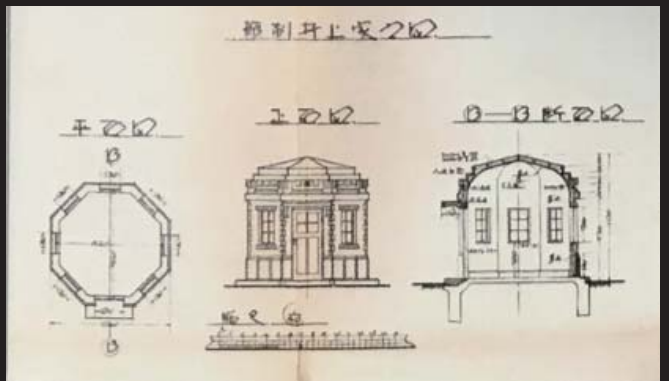


写真6 節制棟の設計図

名称：さのてい

所在地：姫路市夢前町新庄 1262



佐野邸全景



本館



【公開日】

土曜・日曜日および祝日（12月29日～1月3日は除く）、午前10時～午後4時
※文化財保護のため、荒天時は、公開を休止する場合があります。

【概要】

佐野家は初代清佐衛門が、榊原康政に仕え、二代目清佐衛門は康政の孫忠次に仕え、慶安2年（1649）忠次の移封に従って姫路へ移ってきた。清佐衛門と長子四郎左衛門は、ゆえあってともに榊原家の臣籍を離れ、その時、玄意近春はまだ幼少であったので、伯父の中根善次郎貞成に預けられた。正徳元年（1711）中根氏は新田開発の要請をし、藩主はこれを認めて賀野庄新庄村での開発を許可した。佐野玄意の子、権太郎が新田開発人となって、田約八町歩、畑山林四十五町歩、宅地一町二反歩を開発し、「佐野新田」と名付けられた。その後、荘右衛門周春、円治芳近、玄意精春、李弥春重、円治満方、富松直信、芳之、信雄とつづき、その信雄氏が、昭和62年10月、建物、敷地等を夢前町に寄贈し、公共のために役立てたいと遺言を遺され、遺族より寄贈を受けた。江戸時代中期に建てられた主屋は、夢前町内稀少の庄屋風の造りとして、平成5年11月に夢前町文化財に指定された。
姫路市文化財課ホームページより

【感想】

夢前町、以前取材した『壺坂酒造』の横を通ってさらに北上した田畑の広がる山裾の少し高い敷地に今回の取材対象の『佐野邸』がある。「空気がおいし〜い！」とTVの旅番組では必ず言いそうなロケーションである。
門の外には稲荷神社があり、それを横目に門を潜ると立派な庭を前にした行儀のよさそうな古民家が続いている。（行儀がよいという表現が合っているかどうか？あくまで私感です。）
閉館一時間前に着いたので、中から見学をすることにした。
戸を潜り玄閣土間へ、これまでの民家と同じく奥の土間には竈がある釜屋と呼ばれる厨房がある。このあと、また玄閣土間に戻り、式台から「店の間」と呼ばれる小さい部屋に上がり「玄閣の間」「中の間」「上の間」と続く広間を見た瞬間、『この空間いい！今までの古民家のなかで一番雰囲気がいい！』と思わず声が出ていた。
写真などでは伝わりにくいとは思うのだが、居心地がよい、落ち着く、極端に言えば 住みたい！（笑）



各部屋を回っていく、ところどころ補修はされているものの残念ながら大分傷みが進んでいる。脇トコの天袋の襖などはなかなかきれいな襖絵が描かれているのだが傷みが激しい他の襖も同じように傷みが激しい。「上の間」「中の間」「仏間」と長押しにそれぞれデザインの違いが使用されているが、これも、無かったり、有っても下の座のみのものであったり。非常に残念である。（ちなみにデザインは順番に琵琶の葉と実？、松、鶴だと思われる）「次の間」の床も下がっている部分があった。しかし、「いいなあ！いいなあ！」とつぶやきながら内部の見学を終えた。いろいろな意味を込めて「きれいな建物」だと思う。門も当時のものらしく両脇の部屋は男衆と女衆が分かれて暮らしていたそうで現在は資料館と管理の方の控室になっている。

庭を見ようと外に出た時に管理をされている方から色々説明をさせていただいた。以前の庭は草ぼうぼうの荒れ放題だったが約5年くらい前から市の委託で手入れを始められてから見学者数が増え、それだけ多くなくなった。（ちなみにこの施設は無料で見学できます。）特に写真を趣味にされている方が多く来られる様だ。他にも、大銀杏やもみじ、ビワや柿や柚子など四季折々の自然を楽しむことができる。今回はタイミングよく「モリアオガエル」の卵を見ることができた。この卵を見ている時に急にたくさんの「モリアオガエル」の鳴き声が聞こえ始め管理の方曰く「今晚たくさんの卵が産まれると思いますよ。」嬉しそうにされていたのが印象的だった。



今回も問題点はかなり腐朽が進んでいる箇所があるが予算がないので簡単に修理はできない。維持管理は難しいとのことだった。毎回同じ問題点で本当に何とかしなければ伝統的な古建築はなくなっていくのではと感じるばかりである。

追記：現在管理の方が使用されている部屋の壁に、補修が必要な箇所がこと細かく記入された平面図が貼ってあった。定期的に詳細に調査されているようで感動さえ感じました。この古民家は四季折々の楽しみ方ができるようです。撮影スポットも色々教えてもらったがどの場所かは是非現地に行って直接聞いていただきたい。一つだけ紹介すると庭には『菊の御紋』が隠れている！それから、ふらっと立ち寄ってみてタイミングが良ければいいことがあるかもしれませんよ！福岡さんはちょっと良いことがありました（笑）

『建築』・『環境』...

1970年代、高度経済成長真只中、東京五輪、大阪万博の開催といったビッグプロジェクトを引き金として、空前の建築ブームが国内を席卷した。名だたる建築家たちの手によって国内いたるところで、真新しい魅力的で大規模な建物が毎日のように建築された。そして、その高い設計思想に基づく、夢のある空間があちこちに生まれ出る様子が矢継ぎ早に建築雑誌に紹介され、建築を学ぶ当時の我々学生にとっては目を見張るものがあった。



※ <http://lovefreephoto.jp/> (著作権フリー)



※ <https://pixabay.com/ja/> (商用利用無料)

そこでは、オリジナリティが第一優先とされ、如何に差別化された空間が確保されているか、如何にこれまでにない印象を創り出されているかが専ら競われていた。構造も素材も施工法も多種多様であり、底流にある建築思想もそれぞれに異なっていた。

当時、学生であった私にとっては、まさしくそれが建築の魅力であり、建築家としてのあるべき姿だと捉え、疑うことはなかった。

転機となったのは、学生を終え社会の一員として曲がりなりにも自らの手による建築物を社会に送り出す立場となり、新たな建築を自らの意思により創り出すことになったときである。これまで意識下に潜み心底に沈んでいたある種の思いが湧き出てくるのを覚えた。

ある朝、元町駅を降り山手にある畏怖堂々としたタイル貼の職場へと向かう時、それまでは経験することのなかったある種のストレスを感じた。しかし、それがどこから生じているのかは瞬時には分からず、不安定な感覚を残しながらもしばしの期間が経過した。そんな日常の中ふと、いつものように職場へ向うとき、この感覚は立ち向かう正面の建物から受けるストレスではないのかと気づいた。

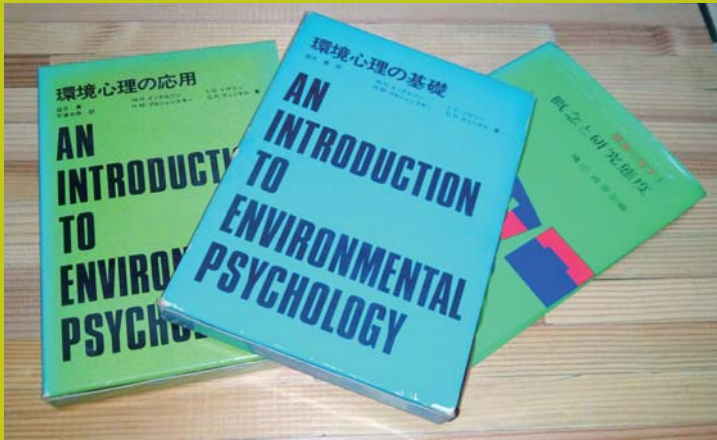
実在する物体として目前にそびえる巨大な壁面、自らの視野のほぼ全域を占有する高さ30m、幅100mを超える規模の壁面に向かう際、そこから生じるエネルギーは桁外れ

に大きく、そのエネルギーを自らのストレスとして感じ取っているのではないのかと思えた。人間のスケールをはるかに超越する建築物が、近づこうとする人間の感覚・行動に対し直接的に影響を及ぼすことを、いままさに体感しているのではないかと思えた。

そして、次の疑問は、「この種のストレスは誰もが感じるものであろうか？」であった。自らの感覚が特異解なのか、一般解なのかは重大であり、そのことを確認するために、それとなく周辺の人々に問いただすと、やはり程度の差こそあれ、同様に圧迫感のようなストレスを感じているとのことであった。

これが契機となり人間を取り巻く物理的環境、特に人工的な都市環境について敏感となり、強い興味と関心がある方面へ向くこととなった。

今では、一般化しすぎるくらいになった「環境」という表現も、当時はほとんど使われることはなかった。建築学の中では、建築計画の分野で建築環境という概念でもって、音・熱・振動等といった物理的な要因に対する多くの研究は既になされており、大きな成果をもたらしていた。しかしながら、建築物自体の存在が周辺に及ぼす心理的な影響、建築物の規模・色彩・形状等が人間社会に対して与える影響を考察することを目的とする研究は、未だ進んでいない状態であった。



そんな中、建築物が創り出す環境に関心を寄せているうち、心理学的なアプローチの方法として、周辺環境からの心理的な影響を考察する学際的な性格を持つ環境心理学という学問があることを知った。ただし、当時はまだ草分けの段階の分野であり、多くの研究者による論文や著書が発行されているわけではなかった。

しかしながら、この方向からのアプローチは、当時抱いた疑問に対し正面から回答を与えてくれることが多く、前記のストレスについてもある程度の論

理的な説明をしてくれるもので、非常に興味深く学ぶことができた。

その一方で、建物・周辺環境から受け取るストレスの多少を生理学的に計測することも試みた。当時の知人・友人の協力を得て、感情を支配する脳細胞の活動状態を、人間が周囲から受ける情報の最も大きな部分を占める「視覚」を通して計測できないかと、被験者にインパクトのある数種のスライドを見せ、その際の脳内の活動状況を脳波計により読み取り、その因果関係の有無を解析することを試みた。何度かの実験を行い、与えた刺激に対して被験者の脳波が、明確に反応を示していることは確認できたが、残念ながら自らの力不足に加え、被験者に対してノイズのない純粋な刺激を与えることが難しく、特定の刺激に対して特有の反応を見つけるところまでの有為な結論を導き出すことはできなかった。

ただ、環境からの刺激に対して脳内細胞が活発に活動することが明白になったことで、あの日最初に抱いた、建物から受けるストレスの存在自体が確認できることとなった。

人間が創り出す環境が、人間に作用し、人間を変えていく。そんなシステムがすでに出来上がっている。そして、そのシステムの中で建築物という都市の一部を創り出す立場の人間は、好むと好まざるにかかわらず第三者に影響を及ぼすことを余儀なくされる。

我々の設計活動は、建物を創るのではなく人をつくることにつながる。そう気づかされたとき、『建築は単体としては存在しない』、『すでに形成されている環境の一部としてしか存在しない』という至極当然のことが、新たな意味を持って重く意識づけられた。

新たに生まれる建造物は、予め、全体中の一部分としての位置づけがなされており、その責務を果たしながら存在していく。社会の中に創出される建築は、公共施設はもちろんのこと、一個人の所有物であっても、社会資産として創りだされた環境の中に生きる建築としての存在を求められる。

建築の環境という概念ではなく、環境の中にしか存在することができない環境の中の建築という概念でなければならぬという結論に至った。

それを仮に『環境建築』と呼ぶことにすれば、建築設計に携わる者は常に『環境建築』を創り出していく姿勢が求められる。

これが、ほぼ40年前、ある朝、何気なくふと感じたストレスに端を発し、たどり着いた結論であり、その結論をその後も絶えず継続して設計活動の根底に持ち続けている。

平成28年5月



よしだ・かずゆき

1953年10月生まれ

一級建築士・技術士

株式会社 環境設計

姫路支部 理事